



「にいがた緑の百年物語」10年を振り返って

日本人にとって十年目という節目は「昔」と考えるが、辞書を引くと十七年、二十一年、三十三年前などを意味したこともあったそうである。日本人の考えではもう十年を過ぎてしまった昔のことだということ意味を持つ年月が過ぎてしまったということになるのだろう。人間もこの世に生まれて十才になったとしても一人前の人間と誰も考えられないし、まだまだ幼い子どもである。十年は遠い昔と考えられる面もあるが、やっと十年という考えもある。アメリカの先住民の言葉で「一つの事を定める場合には七代先の事を考えて定めよ」というのがあるそうである。物事を定める時にその場のぎで考える事があるが、大人が集団で物事を定める事はやはり少なくとも百年が当たり前であると思う。私は以前にドイツという国に度々旅をしたことがある。その頃聞いた話ではドイツで「一世」という年月は百五十年だと聞いたことがある。色んな国々と国境を接し、度重なる興亡を繰り返してきたヨーロッパの国々とは異なる日本の歴史の中で育ってきた人間感情で、「一世」の感じ方は違って当たり前であるが、「木を植える運動緑百年物語」に共鳴して集まった仲間たちは昔から日本人がイメージして来た「十年一昔」の「一昔」を少なくとも百年と考える人間にならなくてはと思う。自分達が急ぎ過ぎて犯した自然破壊に対しての償いとして、百年かけて原野で汗を流して木を植える運動は当たり前前の事ではないだろうか。明日やることは今日我々が決めなければならぬはずである。

緑百年物語を歩み出して十年目に又改めて百年に向かって一歩ずつ、一本ずつ木を植えて行くことではありませんか。緑多き日本各地を旅し、そして又緑多き国々を旅し、そこに住む人達の努力を改めて自分自身胸の中にとめたいと思います。「前人樹を植えれば後人涼し。」これは我々新潟に住む人間と各々その家族のために！



にいがた緑の百年物語
10周年記念フェスティバル実行委員会 委員長

佐藤 文也

"あの日(10月17日)の感動を" にいがた緑の百年物語 10周年記念フェスティバル

にいがた緑の百年物語県民運動が2001年にスタートしてから10年。県内に広がった「緑の守り人」が主体になり、この10周年を記念し県内11箇所で開催されたサテライトイベント。そして、この地域の盛り上がり、熱い思いが10周年記念フラッグと共に10月17日のフェスティバルへと引き継がれ、スタッフ、出演者、そして会場に足を運ばれた方々、子どもから大人まで世代を越えた「緑の守り人」総勢1300名により繰り広げられた「緑の守り人」のドラマをまとめました。



プログラム

(1)ステージ催事(ホール)

第1部

①オープニングセレモニー<開会式>

- ・開会宣言
- ・合唱
- ・フラッグリレー
- ・開会挨拶
- ・来賓祝辞

②特別記念ステージ「緑の奏:オカリナ奏者 宗次郎」

③緑の百年物語県民運動10年のあゆみ「歌とトークで綴る10年」

④にいがた緑の少年団大集会 新潟県内緑の少年団活動発表

分散会(2F中会議室、特別室)

◎活動発表「地域の部」

○ワークショップ形式の座談会・意見交換会「大人の目」

テーマ「にいがたの緑-地域の悩みそして未来」

◎活動発表「子どもの部」

○ワークショップ形式の座談会・意見交換会「子どもの目」

テーマ「体験の交流-そこから生まれる新しい夢」

休 憩(アラカルト) 組耕21ガッター、Neglicco(ねぎっこ)ステージショー、スタンブラリー、緑の百年物語PRブース、パネル展示

(2)ステージ催事(ホール)

第2部

⑤緑の舞:新潟県立中央高等学校ダンス部

⑥千人のみどりの輪討論会「未来のみどりを語ろう!」

⑦フィナーレ

- ・Next10宣言



各地の想いを会場へ

各地のサテライト会場の盛り上がり
をフラッグと共にフェスティバル会場へ
つなぎました。

緑の百年物語10周年記念事業in新発田

「春の歌まつり in 新発田」
平成22年4月17日(土)
新発田市「市民文化会館ホール」
参加者:700人



「にいがた緑の百年物語
10周年記念フェスティバル」に
フラッグをバトンタッチしました。



緑の百年物語10周年記念事業in柏崎

「第8回柏崎刈羽地域植樹祭」
平成22年10月16日(土)
柏崎市「柏崎・夢の森公園」
参加者:150人



緑の百年物語10周年記念事業in村上

「植樹を通じ自然を学ぶ日」
平成22年5月8日(土)
村上市「グリーンパークあらかわ総合運動公園」
参加者:600人



緑の百年物語10周年記念事業in佐渡

「原生林親子探勝会」
平成22年8月22日(日)
佐渡市岩谷口「新潟大学演習林千手杉エリア」
参加者:36人



緑の百年物語10周年記念事業in魚沼

「第6回魚沼森の感謝祭」
平成22年6月19日(土)
南魚沼市「五十沢キャンプ場」
参加者:350人



緑の百年物語10周年記念事業in上越

「きれいな森を育てます。
上越地域水道用水企業団植樹」
平成22年10月3日(日)
上越市神崎区「柿崎川ダム上流」
参加者:100人



緑の百年物語10周年記念事業in長岡

「育てよう! かけはしの森」
平成22年10月9日(土)
長岡市市営牧場内「かけはしの森」
参加者:250人



緑の百年物語10周年記念事業in魚沼(松之山)

「ふるさとの木、ブナの森づくり」
平成22年10月2日(土)
十日町市松之山「森の学校キョロロ」
参加者:75人



緑の百年物語10周年記念事業in魚沼

「うおぬま里山まつり」
平成22年10月10日(日)
魚沼市小出「響きの森公園」
参加者:100人



緑の百年物語10周年記念事業in糸魚川

「未来に残そう! 美山の桜」
平成22年9月30日(木)
糸魚川市「美山公園」
参加者:200人



緑の百年物語10周年記念事業in新潟

「海の森に親しむ会」
平成22年9月11日(土)
新潟市西区「西海岸公園」
参加者:160人

にいがた緑の百年物語

第1部 10周年記念フェスティバル

オープニングセレモニー

にいがた緑の百年物語10周年記念フェスティバル、オープニングセレモニーは、大関啓史くん、辻奈菜子さんの開会宣言に始まり、青い鳥保育園児たちの合唱やフラッグリレーなど、10周年にふさわしい華やかで盛りだくさんの内容となりました。

タイムテーブル

- 開会宣言…新潟市立新潟小学校 大関 啓史
阿賀野市緑の少年団 辻 奈菜子
- 合唱…青い鳥保育園児
- フラッグリレー…柏崎・刈羽地域緑化連絡会議
会長 栗林 淳子
- 開会挨拶…実行委員長 伊藤 文吉
- 来賓祝辞…新潟県知事 泉田 裕彦
新潟市長 篠田 昭

開会宣言

にいがた緑の百年物語は、「前人樹を植えれば後人涼し（ぜんじん きをうえれば こうじん すずし）」の精神に共感し、県民が力をあわせて取り組む県民運動です。今年で10周年を迎えます。新潟の誇りの一つとして大きく育ってきました。あれから10年たちました。ありがとうございます。おかげさまで10周年。これからもよろしく。

「未来を築くみどりの力」のテーマのもと
もっと ひろげよう みどりのわ
もっと つなぎあおう みんなのわ

にいがた緑の百年物語 10周年記念フェスティバルの開会を宣言します。

平成22年10月17日

新潟市立新潟小学校 大関 啓史（おおせき けいし）くん
阿賀野市緑の少年団 辻 奈菜子（つじ ななこ）さん



青い鳥保育園児 合唱



記念フラッグを迎えるにあたり、青い鳥保育園の園児たちに「トンボのめがね」「世界中のこどもたちが」の2曲を披露して頂きました。かわいらしい歌声が、会場中に響き渡りました。



フラッグリレー

県内各地で開催されていた、サテライト事業をリレーしていたフラッグが、伊藤実行委員長へ手渡されました。



開会挨拶

実行委員長 伊藤 文吉

大事な財産である子どもたちの世代が、木を植えることを心に浸透させていけば、遠くない未来、日本中が美しい森になっているでしょう。

10年で各地に広がり根を張った県民運動の輪、これからも力を合わせて新潟を美しい緑にしたい。

来賓祝辞

新潟県知事
泉田 裕彦様



緑を守る為には長い年月が必要であり、社会の仕組みをつくるのが大切です。今回のフェスティバルが一つの機会になってくれればと願っています。

新潟市長
篠田 昭様



新潟はもっと緑に関心を向ける取り組みが必要だと思います。

これからも永遠に継続していける取り組みの中で、運動の輪を広げていって頂きたい。

にいがた緑の少年団 大集会

村上市朝日緑の少年団

阿賀野市緑の少年団

牧緑の少年団

五十沢緑の少年団

つつしが丘緑の少年団

畑野緑の少年団



牧緑の少年団

私たちは上越市から来ました、牧緑の少年団です。私たちが住んでいる上越市牧区は、樹田や温泉、ブナ林があり、周りを緑に囲まれた自然豊かな地域です。牧緑の少年団は、上越市立牧小学校4・5・6年生を正団員とする団体です。まず、今年度の活動について報告します。

4月に、入団式を行いました。新4年生が正団員として入団し、育成会長から制服、帽子、緑の手帳を受け取りました。その後、縦割り班に分かれて、区内のごみ拾いをしました。牧区は落ちているごみが少ない方ですが、それでもビニール袋いっぱいにごみが集まりました。

8月には、上越地区の緑の少年団の交流会がありました。妙高市の森で、市内の小中学生と「秘密基地作り」をしました。森にある木を切ったり、ロープでつなげたりして、いろいろな形の秘密基地ができあがりました。

9月には、上越市大潟区まで遠足に行きました。海岸や自然公園などに行き、山に囲まれた牧区とは違った上越市の良さを体験することが出来ました。また、縦割り班で活動することで、全校が仲良くなれた遠足でした。



緑の少年団全国大会活動報告

今年度の緑の少年団全国大会の様子について、報告します。今年は青森県で開催され、新潟県代表として、私たち2名が参加しました。

1日目、最初に記念式典がありました。全国から集まった都道府県代表の団員が、団旗をかかげ、ステージに上がりました。形や色の違う様々な制服を着た団員が、全国から大勢集まっていることに驚きました。そして、全国的にも有名な三内丸山遺跡を見学しました。集会所とされる建物や物見やぐらも実際に見ることができ、赤ちゃんのためのお墓の形も知ることが出来ました。その後、宿泊施設に向かいました。施設では、他県の団員と同じ部屋で過ごしました。

初日は、班のメンバーと仲良くなるため、交流会を行いました。ボールを運ぶミニゲームは、みんなの意が合わず、なかなかゴールまでたどりつけなくて、難しかったです。最後にやっとたどりつけたときは、嬉しかったです。

2日目は、まず十和田市近代美術館に行きました。日本国内や海外のアーティストの作品がたくさんありました。実際に手でさわったり、のぞいたりする作品も多く、楽しく見学できました。次にバードコールを作りました。バードコールとは、小鳥のように鳴くおもちゃです。ブナやヒバの木を切るのは大変でしたが、うまく作ることができました。午後からは、奥入広瀬渓流に行き、渓流沿いを観察しながら歩きました。水はとてもきれいで、空気もおいしく、ところどころにある滝は、迫力満点でした。ガイドさんから、渓流は夜の間は水を止めていること、人工の滝もあることを教わりました。

3日目は、それぞれのグループが活動の様子を発表しました。私たちは、1日目の交流会の様子について、原稿をまとめて発表しました。大勢の人の前で緊張しましたが、うまく発表することができました。

私たちは、この3日間で、青森の自然を満喫し、全国から集まった団員と友達になることができました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。(上越市立牧小学校)

阿賀野市緑の少年団

私たちは、阿賀野市緑の少年団です。

昭和59年に当時の笹神村で「笹神村緑の少年団」が結成されました。

その後、平成16年に阿賀野市が誕生し「阿賀野市緑の少年団」と名前が変わりました。

今年は8つの小学校の、5年生と6年生の32人で活動しています。

私たちの住んでいる阿賀野市は、新潟平野のほぼ中央にあり南側から西側にかけて広い阿賀野川が流れています。東側には美しい緑や登山が楽しめる五頭連峰があり、自然に囲まれたとてもいいところです。

私たちの緑の少年団は、「NPO法人里山クリーン新潟」のご指導をいただき、笹神の王ヶ峰山に50本の木を植え「育木の森」として育てています。

春には木が大きく伸びるように、雪でたおれた枝をおこす雪おこしをしたり、草刈りのお手伝いをして整備しています。

また、今年の春は「うらの森」という観光施設の広場に「サルスベリ」を300本植えました。

もっと緑が増えたらいいな、早く大きく伸びてほしいな、と願いながら植えました。

私たちは、いろいろな小学校から集まっています。団員同士がもっと仲良く活動できるように、1泊2日でキャンプ



をしました。

山道を歩いて森林浴を体験したり、空き缶でご飯をたいたり、消防署の救命士さんたちから救急講習を受けて、友だちの脈をはかったり、けが人をはこぶ練習をしました。

このキャンプでは、みんなで助け合って行動することを学びました。

夏休みには下越地区の緑の少年団の交流集会在胎内市で行われました。自然の中でゲームをしたり、工作をしたり、よその少年団の人たちと友だちになれてとても楽しかったです。

私たちはこれからも、ふるさとの豊かな自然にふれ、みんなで協力し合って活動し、緑を増やし大切に守ってきたいと思います。

（阿賀野市 緑の少年団
相田 優希乃 島倉 桃子 榎本 万希）

五十沢緑の少年団

私たちは、五十沢緑の少年団、6年生19名です。五十沢緑の少年団は、平成8年に結成されました。結成以来、学校での花や緑の環境美化活動だけでなく、さまざまな活動を進めてきました。これから私たちの活動のようすを紹介します。

私たちの校区に、三国川ダムがあります。その入口に、私たちが花を育てている「花の丘」という場所があります。全校で、花の苗植えや草取りなどに出かけ、マリーゴールドを栽培しています。今年の花はもう終わりになりますが、よろしければ来年、ぜひごらんください。大きな看板がたっているの、すぐ分かるはずですよ。

例年4月には、緑の羽根募金活動を行っています。南魚沼市役所と地域振興局に、二手に分かれて出かけます。緑の大切さを訴えながら、庁舎内をまわり、募金を集めます。職員の皆さんは、みんな気持ちよく募金をしてくださいました。やさしい声をかけていただき、私たちも気持ちよかったです。

6月には五十沢キャンプ場で、「魚沼森の感謝祭」が行われました。その中で、私たち五十沢緑の少年団は、にいがた緑の百年物語緑化推進委員会から感謝状を頂きました。先ほどお話した、緑の募金活動が認められたものです。この感謝祭では、私たちの鼓笛演奏や記念植樹、育林



作業の実演など、さまざまなイベントが行われました。

8月には魚沼・南魚沼地区の緑の少年団交流集会有りしました。私たちを含め、5つの少年団が津南町に集まり、交流をしました。インストラクターの方に色々なことを教えていただきながら森林を歩く、自然観察活動、わら細工やアンギンあみなど、自分の選んだものをつくる、ものづくり体験活動を行いました。暑い日でしたが、自然にふれるとともに、仲間を増やすことができました。

私たちの五十沢小学校は、3月に閉校となり、校舎は取り壊されてしまいます。とても、さびしいですが、新しい五十沢小学校の後輩たちには、私たち緑の少年団の活動を引き継ぎ、自然にふれ、緑を増やす活動がんばってほしいと思っています。校舎はなくなっても、ふるさと五十沢の緑あふれる環境は絶対に守ってまいります。

（南魚沼市立五十沢小学校）

つつじヶ丘緑の少年団

私たち下早川小学校つつじヶ丘緑の少年団では、つぎの3つの活動を行っています。

1つ目は地域清掃です。地区ごとに分かれて、自分たちが住んでいる地域をきれいにする活動です。たばこの吸殻、空き缶、紙くず、ビンやプラスチックなどを分別して集めます。今年度は、燃やせるごみが大きい袋で4つ、金属ごみが大きい袋4つ、ペットボトルが小さい袋1つ、埋め立てごみが大きい袋5つあつまりました。多くの保護者の方々にも協力していただき、地域をきれいにすることができました。

2つ目は学校林の手入れです。鳥の住みやすい環境づくりに役立てようと、毎年、6年生が行っています。今年で50年目になります。学校林は学校から歩いて1時間くらいのところにあります。学校林では、下草の刈り方やチェーンソーを使った木の切り方を学びます。学校林には、ヒバの木やカラマツの木があります。これらの木を大切に育てるために手入れを続けていきます。



つぎみす

3つ目は探鳥会です。探鳥会は月不見の池周辺で見られる鳥を調べる活動です。鳥の繁殖期で、さえずりがよく聞こえる5月頃に5年生が行っています。今年度は、18種類の鳥のさえずりを確認することができました。探鳥会をもとに、愛鳥ポスターづくりにも取り組んでいます。

私たちはこれからも、地域や学校林をきれいにし、下早川をいろいろな虫や鳥が集まってくるような場所にしていきたいと思います。(糸魚川市立下早川小学校)

畑野緑の少年団

私たちの松ヶ崎中学校は、佐渡海峡に面し、2階の3年生教室からは弥彦山や角田山など、越後の山々がきれいに見えます。

また、古い木造校舎は温かみがあり、全校の生徒数、9名の小さな学校です。

緑の少年団活動の中で、私たちが力をそそいでいる学校林活動に重点をおいて紹介します。

学校林の歴史

昭和25(1950)年、中学校校舎新築のため、木を切り出したあとに、先輩たちは赤松の植林を始めました。当初は、松を育て、次の校舎改築のときに、資金や資材にすることがねらいでした。時に、緑の百年物開始のちょうど半世紀も前のことです。

以後、昭和32年文部大臣奨励賞、昭和52年新潟県学校林管理コンクール特選並びに県知事賞、昭和63年緑化推進功労者内閣総理大臣賞、平成15年森林病虫害等防除活動コンクール全国第1位、林野庁長官賞、第8回新潟県環境賞、平成19年全国学校関係緑化コンクール準特選、平成22年佐渡市環境大賞など、数々の賞をいただきました。

学校林活動の開始時には、「佐渡の根となれ、幹となれ」「若木伸びろよ、われらも伸びろ」をスローガンにして、合計70,000本余りの植林に取り組みました。

学校林を紹介します。

松ヶ崎中学校には、学校林が4か所あります。

第1学校林(7.9ha)は、昭和40年代から広がったマツクイムシの被害にあい、赤松は全滅して、今は「教育の森」になっています。

第2学校林(14.0ha)は、毎年春と秋にマツクイムシの被害にあった松を切り倒してくん蒸したり、下刈りなどに取り組み、赤松林を育てています。

第3学校林(5.8ha)と第4学校林(1.5ha)は、秋の学校林調査活動に活用していますが、手入れは行き届いていません。

第2学校林のくん蒸作業の説明をします。くん蒸とは、マツクイムシ(マツノセイセンチュウとマツノマダラカミキリ)を消毒する作業です。

マツクイムシの被害にあった松の木を切り、1mくらいの丸太に



切った松を運びます。そして、立方体に組みます。上から特別なシートをかけ、消毒液をかけ、被害の拡大を防ぎます。今年は、77名が参加し、20本余りをくん蒸しました。

学校林を使った活動は、くん蒸作業ではありません。秋の学校林調査活動では、ロープを使って登るところもあり、大変ですが、手入れの行きわたった第2学校林と手入れできない第3・第4学校林の違いを毎年確認します。おとしはマツタケがとれました。そして今年は、写真のようなマツタケがとれました。調査活動でとれなくても、毎年、地域の人がマツタケをとって学校に寄付してくれます。給食にマツタケご飯がでるのは、その時です。自分たちの手入れした学校林でのマツタケは最高の味です。

秋の学校林作業は、第2学校林で松以外の雑木を刈ります。斜面がきつく大変ですが、保護者をはじめ、地域の方々が手伝ってくれます。

また、年に2回取り組む「森の講座」では、おとし、新潟大学の先生をお招きし、「里山の植物」を何種類も教えて頂きました。

おとし9月、全校生徒でトキの第1回放鳥を見学しました。その後、松ヶ崎中学校の生徒が自宅付近でトキを見ている。また、野生最後のトキは、松の木に巣を作っていたことも学びました。

私たちは、「朱鷺が住める学校林」いえ、「朱鷺が住める学校」を目指して、保護者、地域と連携しながら、この活動を続けていく気持ちでいっぱいです。

(佐渡市立松ヶ崎中学校

本間 隆晃 菊池 詩織 釜田 哲也)

第2部

休憩時間が終わり、第2部は新潟県立新潟中央高等学校ダンス部による「緑の舞」でスタートしました。

「緑の舞」は、社にいがた緑の百年物語緑化推進委員会の監事である、写真家 天野尚さんの写真集をモチーフに、中央高校ダンス部の皆さんが、10周年記念フェスティバルのために創作したオリジナル作品です。来場されたお客様も、約10分間の美しいダンスを堪能しました。



緑の百年物語
10周年記念
フェスティバル
緑の舞



ステージイベントは午前にひきつづき第2部が行われ、多くの来場者の方にご参加を頂きました。

緑の百年物語
10周年記念
フェスティバル
ステージ



にいがた緑の百年物語10周年記念フェスティバル

千人のみどりの輪 討論会

コーディネーター



コーディネーター
鈴木 寿行

コーディネーター
渡辺 景子

にいがた
緑百年物語

パネリスト



(株)マルユー
代表 森山 義一



新潟大学農学部
教授 箕口 秀夫



Negicco
ねぎっこ
Kaede Nao Megu



新潟青陵高校
生徒代表

1. パネリスト発言

箕口：わたしは「森の世代交代」を研究しています。森は世代交代をしながら暮らしています。それは人間や人間社会一緒です。

森山：わたしは五泉市村松で林業をしています。山の木を切りそれを工場に搬して製材をしたり住宅の材料を作ったり、またお箸やテーブルなども作っています。靱なども木で作っています。

中野（新潟青陵高校生徒会長）：新潟青陵高校の生徒会では、発展途上国の子どもたちに800個で一人分のワクチンを送るエコキャップ運動を行っています。

Negicco：わたしたちはエコ活のCMに出たことをきっかけに、今でも人ともエコに気をつけながら活動しています。



新潟青陵高校

2. テーマ① 生活の中のエコ

・最近、友人が薪ストーブを買いました。薪ストーブは木質ペレットを燃焼するストーブですが、杉の間伐材などの間引きをした材から作ることができます。友人のことを「格好(いい)エコ」と思っています。(箕口)

・私は冬は毎日薪ストーブをたいいて、昼寝をするのが日課です。皆さんも薪は高くないので是非使ってみてください。(森山)

・最近私が思うエコはタンブラー(水筒)です。みんなが持っていて流行っているし、おしゃれなものも沢山あります。またお昼

もお弁当にすれば、購買のパンなどの包装材のプラスチックゴミが少なくなるし節約にもなると思います。(青陵高校)

・食器を洗う時や歯を磨く時、お風呂で体を洗う時など水をだしっぱなしにしている習慣だったので、気をつけなさいといけないと思いました。(青陵高校)

・お風呂のお湯を何度も沸かし返さなくてもいいように、お風呂の湯船の上にお湯の熱を逃がさない保温マットを使用しています。(N e e i c c o)

・魚沼市農林課です。薪ストーブをもっと普及していきたいです。石油ではなく自然の燃料を活用し昔の生態系を蘇らせて、手軽にできる薪作りを市ぐるみで取り組んで頑張っています。(会場)

3. テーマ② 最近あった緑に関する恥ずかしい話・緑に関する困ったこと

・「CO2削減」とよく言いますが、「O2製造」「O2倍増計画」とは言わないのはなぜですか。(鈴木)

・(鈴木さんの問いに対しての返答)植物は二酸化炭素を吸収して酸素を出す光合成と同時に、酸素を吸収して二酸化炭素を出す呼吸も行っています。さらに森全体は様々な動植物で成り立っています。動物はみんな酸素を吸って二酸化炭素を出していますから、なかなか「酸素の倍増計画」というのは現実的ではありません。特に屋久島のような何千年も生きているようなベテランの森は、全体の二酸化炭素と酸素のつり合いが既にとれています。

木々が吸収した二酸化炭素は木の幹にほとんど蓄えられていくので、木の幹が太っている状態が一番二酸化炭素を吸収しやすいのです。つまり若い森、若い木の方が二酸化炭素の吸収能力は高いのです。

(箕口)

・木も新陳代謝が必要なんです。(渡辺)

(渡辺)



参加者の発言



写真家 天野 尚さん

・新しい木が育つてくれることによって森林はいい環境になるので、皆伐や間伐が必要です。また間伐材を商品化につなげ建築材や家具類に使ったり、かばんなど木で様々なものに加工することで、家中にまた新たな森が誕生します。木は土の上に立っているときにも生きていますし、テーブルなどに加工して使っていると、木の香りがしますので木は生きています。木は一回生きるのです。(森山)

4. 分散会報告

「夢」・・・「県民運動としてピオトープの保全や緑のことを考えた生活の仕方を実践していきたい」「自然いっぱいの新潟県にしたい」「もっともっと緑を増やしていきたい」

「疑問」・・・「緑化活動をしていることをもっともっと知ってもらうにはどうしたらいいのか」「視野を広げたい」「緑化活動を知っている人が少ないので、校内でも活動を広げていきたい」

「努力」・・・「もっともっと花壇に花を植えればいいのではないか」「緑のカーテンがあれば地球温暖化を防げるのではないか」

「評価」・・・「緑化活動を行ったらみんな活き活きしてきた」

子どももの分散会の意見から、小学生・中学生・高校生の皆さんは緑化活動を真剣に考えている方が多いことがわかりました。もっと意識を高めるにはどうしたらいいかという質問もいくつか出ています。
(渡辺)



5. テーマ③ 緑化活動が広がるアイデア

私たちは環境に関わるCMに出させてもらってから個人的にもエコを実践しています。また、「マイボトル持ってます」「電気はちゃんと消します」「マイ

バック持ってます」などをブログに載せたりしてエコ活動を広げています。
(Negicco)

青陵高校の生徒会では生徒会新聞を作っています。不定期ですが、みんなが目を通してくれるような生徒会通信を作成してPRしています。(青陵高校)

私たちは創作ダンスを通して、たくさんの人たちに自分達のダンスを見ていただきたいです。自分達の伝えたいことが見てくれる人に伝わるのが喜びややりがいになっています。(中央高校)

中央高校のダンスを見て、この会場の多くの人たちが感動をしていることにとっても感銘しました。何事も無関心というのが一番よくないと思います。原生林なども、どういう状態でどういう環境なのか、みんなが知つてることが大切です。皆さんのそれぞれの活動はこれからすごく大切なことになると思います。(天野)

大人の分散会の意見の中に、「大学で専門的に学んでいる知識を、もう少しボランティアグループやNPOやNGOのグループにも流れてくるようなルートが作れないだろうか」「やりたいけれど、いつど

のようにやればいいのか」「勉強会をしたけれど、どうしたらいいのか」という意見がいくつかありました。(渡辺)

(意見について)新潟大学は開かれた大学ということ、地域の皆さんと一緒に歩んでいこうという活動を強めていますので、遠慮なく一声かけていただきたいと思います。すでにNPOの活動の中で大学も協力しているところもあります。各学部の事務部に一声かけていただければ事務のほうで要望にあった先生に連絡してくれますので、是非声をかけていただければと思います。もちろん私たちは大学で研究していますが、実はその研究の内容も完璧ではありません。一緒に活動していくことによつて、はじめて研究の内容や成果が検証できると思つています。皆さんたちと共に活動することはすごく大切なことだと意識をしていますので、是非一緒にやっていきたいと思つています。(箕口)

今日は2時から森に感謝するということで「新潟のピアノとうた」というコンサートを当社でやっております。森に遊びに来る感覚で一人のピアニストとボーカルがコンサートを行います。そんな楽しみがあります。(森山)

6. テーマ④ 緑と人の関わり

人間が一番二酸化炭素を排出していると思います。人間が少なくなればその分だけ地球の環境が良くなるのでしょうか？(鈴木)

新潟市は県内の中で一番緑が少ない市町村だと聞きました。新潟市は政令指定都市でも人数が多いのに緑が少ないことに私は悲しくなります。新潟市だけでなく、県内に緑をもっと増やしていきたいと思います。(会場)

緑が少ないということは同じく生き物も少ないのではないのでしょうか。生物多様性という見方からすると新潟平野が一番生き物が少ないかと思えます。緑を増やすということは、やはり生き物の住む世界を作るということになります。緑の魅力について考え、植物と動物が共栄共存する世界を出来るだけ作っていくことがこれから必要かなと思います。

(天野)

動物であれば進化に伴って体の調節をしてきたけど、人間は自然に抗ってきた気がします。でも人間は自分たちのせい自然を失ったからこそ、「今、自然を作

り直さなければいけない」という反省ができる動物なので、次は促進の形に持っていくことが大切だと思います。(青陵高校)

我々が今、生きているところを守っていく方法として休耕田を大事にしようと思って、そこにマコモタケを植えています。マコモタケは農薬を使いません。そのため、タニシ・カエル・ドジョウが増えていきます。マコモタケは今、美味しい時期ですが世の中にまだ知られていないので、是非マコモタケを食べて環境整備にご協力ください。(会場)

自分が出来ることをやっていく意識を持つことが大事だとご意見をいただきました。(渡辺)

7. テーマ⑤ 「私に出来ること、出来ないこと」

研究というのは一人で出来ることの一つなのかも知れません。木を植えたり緑を増やすことは単に植物が増えるということではなく、様々な生き物が生活できる空間を作り上げていくことだと思います。「森」という字は木を三つ書き、「林」は二つです。私は、「木」を植えることは出来ると思いますが、「林」を作ったり「森」



を作るということになると、それはたぶん私一人では出来なくて、いろんな人が力を合わせてやっていかなければ出来ないのではないかと思います。(箕口)

皆さんを山にご案内したりということはいくらでも一人で出来ます。しかし、山に植林に行ったりということは、社員や色々なボランティアの方と協力しながら、出来ることだと思います。(森山)

ジャンプのボトルやペットボトルの飲み物の容器は使おうと思えば何回でも使えるのに、すごくたくさんお店に並んでいきますよね。これからもたぶんどんどん作られていくと思いますが、その容器ももう作らないことにして詰め替えのものに変えたりしてほしいと私は思っています。企業が言うことは一人ではやっぱり難しいのではないかなと思います。企業や社会を巻き込むためには、みんな大勢で力をあわせないとけないと思います。

す。(Negicco)

木や花を植えたいと思っている人は沢山いると思いますが、一人だとなかなか行動に移せないのでないでしょうか。みんなが参加できる組織などの環境が整っていれば、自分も是非参加したくなると思います。(青陵高校)

二人ではなかなか出来ないけど行動に移す組織があったり、一緒にやってくれる人がいれば出来なかったことも出来るようになる、という事だと思います。一人で出来ないことは大勢でやれば出来るかもしれない、大勢で出来ることは友達がいれば出来ることもどんどん増えていき、そして友達がいればなんでも出来るような気がします。意外と新しい発見もすぐ見つかるかもしれませんね。友だちを大勢作るにはどうしたらいいか。このあたりが、分散会の悩みでしたが、「友達づくり」は学生の皆さんが毎日やっていることではないのかなと思います。

(鈴木)

まずは、自分達から挨拶をしていくことが仲間を増やしていくことにつながっていくと思います。挨拶から初めて周りの人に自分の存在を知ってもらって、そこ

から色々な人に伝えていくことが大事なのかなと思います。(青陵高校)

・私は里山の整備ボランティア事業をやっています。私たちも持っている情報はたくさんあるのに体験実践でできる情報を共有できる相手がいまません。小中学校、高校、大学とは、やはりなかなか一緒に活動する時間が取れず、メッセージを出していてもなかなかキャッチしてもらえないのが現状です。(会場)

8. テーマ⑥ 緑の輪を広げる

・お父さん、お母さん、近所のおじさん、おばさんたち、また今まで話したことがない人にもどんどん声をかけて「話してみよう」と言うことが大事だと思います。



また本当は一緒にやりたいけれどもなかなか一緒にやれないという子が周りをみると意外だと思います。そういう子がいたら、「一緒にやろうよ」と声をかけてあげればいいのかと思います。これは大人の皆さんも同じだと思いますが、自分だけやっていけばいいということではなく、隣にいる人にも声をかけて、「一緒にやろうよ」と誘うことが出来る形に結びついていくのではないかなと思います。(鈴木)

・友達というのは「同じ釜の飯」というようなことを言いますが、何か一つのことをみんなで一生懸命やったら実感できたら、きつとずっと友達でいられるんじゃないかなと思います。あいさつとか手を泥だらけにしながらか木を植えたりとか、何か一緒にやるのが緑を守ったり環境を守ることにつながっていくといいです。(渡辺)

・オーストラリアでは次世代の農業としてCO2を減らすのではなく、自分の生活レベルを地球に合わせていくという事を行なっているそうです。地球が変化す



れば、人間も同じように合わせていくというスタンスで農業も取り組み始めたそうです。誰がいいとか悪いとかではなく、自分達で出来ることを自分たちのスタンスでレベルを地球に合わせていくという進め方をしていると聞きました。(鈴木)

・工場の中にスピーカーを置いてモーターの音楽を木に聴かせています。音楽を聴いた効用は人間も植物も一緒だと思います。(森山)

・緑化活動について気楽に色々なキャッチボールをしながら進めていければ、若い人のアイデアや大学の先生のアイデアなど色々なものが次につながっていくのではないかなと思っています。(鈴木)

9. まとめ

・大それた事ではなく、足元のちよつとした気づきがあれば多くの仲間と多くの友達が出来、本当に地球を救うことになるのかもしれないと思っています。それを

10年前から始めて、やっと10年にしかなくていせんが今日があります。それをこれからもどんどんつなげていきたいというのが今回の趣旨でもあります。(鈴木)

・普段は気象予報士として天気を予報たりもします。天気を予報していると毎年毎年気温が上昇して非常に温暖化が進んでいる事に気づかされます。それは人間活動はもちろんのこと色々な要因があると言われていますが、今日の話を聞いて、気づいたということがとっても大切なかなと感じました。(総合司会 佐藤)



・「あー私も緑のサポーターだ」といって自覚を持っていただけ嬉しです。サポーターとして応援してくれる人をどんどん増やしていきたいなと思っていますので、今日、配ったこの紙のサポーターを是非お出かけ先にも付けていってください。(鈴木)

この報告レポートは平成22年10月17日(日)に行われた

「にいがた緑の百年物語10周年記念フェスティバル」

の内容をまとめたものである。

ありがとう!

10周年

- 主催：(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会 / にいがた緑の百年物語10周年記念フェスティバル実行委員会
- 後援：新潟県 / 新潟市 / 新潟日报社 / 朝日新聞新潟支局 / 毎日新聞新潟支局 / 読売新聞新潟支局 / 産経新聞新潟支局 / 日本経済新聞社新潟支局 / NHK新潟放送局 / BSN新潟放送 / NST / TeNYテレビ新潟 / U-X新潟テレビ2 / エフエムラジオ新潟 / FM PORT79.0
- 協賛：(株)アール・ケー・イー / (株)アイ・シー・オー / (株)廣工業 / (株)赤羽 / (株)アグリコア越後ワイナリー / (有)アド・クリーク新潟 / 荒川沿岸土地改良区 / (株)アラセキ / 井口建設工業(株) / (有)池田造園土木 / (株)池田鉄工所 / 石本酒造(株) / 樹土木(有) / (株)伊藤建設 / いわぶね森林組合 / 岩船泊山林道協会 / (株)牛木組 / NPO法人ウッディ阿賀の会 / エフテック(株) / 王子製紙(株) / 加治川さくらの里づくりの会 / 金谷川さくら千本の会 / (株)上塚工務店 / 亀田郷土地改良区 / 刈共(株) / 刈谷田川土地改良区 / 川瀬神経内科クリニック / 北越後農業協同組合 / (有)協和測量設計事務所 / 勤労者とその家族の暮らしに役立つ活動を支援・育成する会 / (株)グリーンシグマ / (株)農 / 国土防災技術(株) / 小高自治会 / サーブラックス(株) / (株)サイタメ / (株)榮技術 / 坂戸花木水の会 / 佐々木土地改良区 / (有)佐渡技術開発 / 里山環境づくりネットワーク / 澤根建設(株) / 三条北ロータリークラブ / 三条商工会議所 / 三島郡北部土地改良区 / (株)サンロック / (株)七葉商店 / (株)シナプス / 新晃田運輸(株) / 上越ケーブルビジョン(株) / 新農工業(株) / (株)新宣 / 新道建設(有) / (株)鈴木造園 / 関川村森林組合 / 灘波温泉連絡協議会 / セナミスミレを育む会 / 第一生命労働組合新潟宮業職支部 / (株)第四銀行 / (株)ダイチ / ダイード・ドリコ(株)中部第三営業部 / (株)タカヨシ / 田中産業(株) / (株)田中石油 / (株)谷村建設 / 中越印刷(株) / (株)長生館 / 網島モーテース(株) / 津南町森林組合 / (株)ツルマキ工業 / ティー・アール・ワイ(株) / 電気化学工業(株)青海工場 / (株)堂谷組 / 特色のある緑の公園を造る会 / 砥尾ニッド(株) / 豊浦郷土地改良区 / 中園みどり森林組合 / (有)中惣林業 / (株)中元組/南雲土建(株) / 新潟県福木商組合 / 新潟県火災共済協同組合 / (社)新潟県公園緑地建設業協会 / NPO法人新潟県山野草をたずねる会・植生研究会 / 新潟県山林植苗協会 / 公益社団法人 新潟県獣医師会 / 新潟県商工会連合会 / 新潟県信用組合 / 新潟県森林組合連合会 / 新潟県森林土木技術協会 / 新潟県生命保険協会 / 新潟県造園建設業協会 / 新潟県治山林道協会 / (社)新潟県地質調査業協会 / 新潟県病院協会 / (株)新潟県林業開発 / 新潟県林業改良協会 / 新潟県林業士会 / 新潟県労働金庫 / 新潟巧測(株) / 新潟市木材連合会 / 新潟総合警備保障(株) / 新潟トヨペット(株) / (株)新潟フジカラー / 新潟臨港病院 / 新潟郷土地改良区 / 新津さつき農業協同組合 / (株)日さく北信越支社 / 日本樹木医会新潟県支部 / 日本郵政グループ新潟連絡協議会 / 柏都電機工業(株) / (株)鳳山理苗圃 / 浜倉剛 / (株)林組 / (有)ハヤシ商事 / (株)平原商会 / (株)福田組 / 特定非営利活動法人ブナ友の会 / (株)フラワーホーム / (株)文明屋 / (株)北越アローサービス / (株)北都 / 北陸生コンクリート(株) / 屋野電気(株) / 本間建設(株) / (株)牧建設 / (有)松里建設 / (株)松沢商会 / 丸山建設(株) / (株)丸山工務店 / (株)丸山造園 / (株)丸勇 / 三河川沿岸土地改良区 / ミツフ興業(株) / (株)三友組 / (株)皆川組 / 南佐渡森林組合 / (株)山崎土建 / (有)山秀 / ゆきくに森林組合 / NPO法人湯沢みどりの会 / 湯之谷地域森林組合 / 夢づくりいたやま / 横越商工会 / (株)ヨシダ電機 / ヨシダメンテナンス(株) / 栄山定雄 / わしざきふれあいばなす会 / (有)渡辺工務店

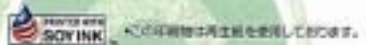


(社)にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

〒950-0965 新潟市中央区新光町7番地2 新潟県商工会館5階

TEL 025-290-8055 info@midori100.com

FAX 025-290-8051 ホームページ http://www.midori100.com



にいがた緑の百年物語は再生紙を使用しております。